

年度	コース	科目名	教員氏名	単位数	授業のねらいと到達目標(DPと当該授業科目との関連)
2022	保育	子ども家庭支援論	向後 富美代	2	<p>”子ども家庭支援は、すべての子育て家庭を対象として、保育の専門性を活かしニーズに応じた支援に関わることを理解し、保育者として子ども・保護者に寄り添い、子育て家庭を支えていくという使命感(社会的責任・生涯学習)を培う。家族形態の変遷を学び、子ども・子育て家庭を取り巻く社会的状況の変化や多様化する家族・家庭について理解し、家庭支援を行う際に必要な知識・技術を習得して、主体的かつ協働的な(コミュニケーションスキル)や(課題解決能力)を身につける。具体的には以下の4点について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。 <p>【保育所、児童相談所、児童養護施設の実務経験を有する保育士が、その経験を生かして様々な家庭状況に応じた支援の在り方を指導する】</p>
2022	保育	国語(書写含む)	反町 京子	2	<p>幼稚園教諭・保育士として必要な国語に関する基礎的な知識や技能を身に付けさせるとともに、子ども一人一人の現状を捉えた上で子どもたちの言語運用能力を高めていく使命感(社会的責任)を培う。また、乳幼児期の言葉の発達を段階ごとに捉えて、その連続性や関連性から子どもを総合的に理解(保育に関する知識)させる。さらに、実践的な取り組みや発表、交流を通して問題解決(課題解決力)やコミュニケーション能力(コミュニケーションスキル)を高める。【国語科教育の実務経験を有する教員が、その経験を生かして、言語に関する基礎的な知識や運用能力の向上を目指した指導をする】</p>
2022	保育	教育制度	杉橋 朋子	2	<p>日本の教育制度は公教育制度という法の枠組みで運営され、法令の規定によって制度的事項が規定されているという基本原理を理解することを通して、子どもの成長を保証する制度や仕組みがあることを知り(保育に関する知識)総合的な子ども理解を推進する。また、近年の子どもを取り巻く状況や幼保一体化政策の推進を背景に子どもに関する業務を統合した行政制度が広がっていることを踏まえて、保育の新たな課題を発見し、解決しようとする話し合いを通して(コミュニケーションスキル)を高め、(課題解決力)を身に着ける。教育・保育と地域や関係機関との連携の仕組みと方法及び子どもの安全に関する危機対応の基本的考え方を理解し、保育者としての使命感(社会的責任)リスクマネジメントに関する(リーダーシップ)を身に着ける。【教育行政および学校経営の実務経験を有する教員が、その経験を生かして、実際のケーススタディ等を行い、今日的な課題解決への対応を指導する。】</p>

年度	コース	科目名	教員氏名	単位数	授業のねらいと到達目標(DPと当該授業科目との関連)
2022	保育	教育実習I	齋藤 めぐみ	1	2年次の本実習にかかわる事前指導。本学のDPに示された建学の精神「敬天愛人」の精神と保育者として、指導案作成や模擬保育等の実習に関わる実践的な活動を通して、子どもが主体的に活動できるための子どもを援助する方法を通して総合的な子ども理解(保育に関する知識・保育技術)を深め、コミュニケーションや問題解決の能力(コミュニケーションスキル)や(課題解決力)を身につけ、使命感(社会的責任)を備えた教育者・保育者育成を目指す。また、本授業を通して2年次の本実習に向けて自己の課題を明確にする。【幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、その経験を活かして、指導案作成や模擬保育など実践的活動を指導する。】
2022	保育	教育実習II	齋藤 めぐみ	1	2年次の本実習にかかわる事前事後指導。実習指導を通して本学のDPに示された建学の精神「敬天愛人」の精神と保育者として、1日責任指導案作成や実習記録の書き方、課題の立て方等の実習に関わる実践的な活動を通して、子どもが主体的に活動できるための子どもを援助する方法を通して総合的な子ども理解(保育に関する知識・保育技術)を深め、コミュニケーションや問題解決の能力(コミュニケーションスキル)や(課題解決力)を身につけ、使命感(社会的責任)を備えた教育者・保育者育成を目指す。 具体的には事前指導では、子ども、および保育者の行動、援助についての考察の方法、毎日の実習における課題と考察の方法、および1日責任実習指導案の作成等保育実践に必要な方法を習得する。事後指導では実習の振り返り、エピソード研究を行い、保育者となるまでの今後の課題を明確にし、課題解決に向けての具体的方法を考察する。また、実習報告の発表も行う。【幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、その経験を活かして、指導案作成や模擬保育など実践的活動を指導する。】
2022	保育	子ども家庭支援の心理学	大野 雄子	2	保育者にとって、子どもへの支援のみならず保護者に対する支援は必要不可欠である。この科目は、発達段階と家族システム、親としての養育スタイルや多様な子育て環境を学び、保育者としての使命感(社会的責任・自己管理)を培い、コミュニケーションや課題解決(コミュニケーションスキル・チームワーク・課題解決力)の能力を身につけられるようにする。 1.生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題について理解する。 2.家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその過程を包括的に捉える視点を習得する。 3.子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4.子どもの精神保健とその課題について理解する。 【幼稚園教諭やスクールカウンセラー等の臨床の実務経験がある教員が指導する。】

年度	コース	科目名	教員氏名	単位数	授業のねらいと到達目標(DPと当該授業科目との関連)
2022	保育	教育心理学	大野 雄子	2	<p>心身の発達及び学習の過程について、総合的な子ども理解(保育に関する知識・保育技術)を基本とし、各発達段階における心理的特性を踏まえた支援の在り方を学ぶとともに保育現場でのコミュニケーションや課題解決の能力(コミュニケーションスキル・チームワーク・課題解決力)を身につける。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの経験や学習過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。 <p>【幼稚園教諭、公認心理師(臨床心理士)として子どもの教育や臨床の実務経験を有する教員が子どもの発達や効果的な支援の仕方について指導する。】</p>
2022	保育	保育原理II	小熊 真弓	2	<p>保育原理IIは、保育者として子どもの成長を促し、より良い保育を行う使命感(社会的責任)を培う。子どもの発達過程の連続性及び教育と保育の関連性を重視し、総合的な子ども理解(保育に関する知識)を基に乳幼児の発達を捉えた保育目標やねらい、内容などを習得して指導計画を立てることを目標とする。また、乳幼児の発達にふさわしい保育内容や保育者の援助を理解して(保育技術)が学べるようにする。【保育の実務経験を有する教員が、その経験を生かして、子どもの発達に対する理解を進めさせ、指導計画の立て方や留意点などを指導する】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている保育のねらいや内容、保育で育みたい3つの資質・能力及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解する。 ②乳幼児の実態を捉え、子どもに寄り添う保育者として自らの考えをもち、事例を通して(コミュニケーションスキルや課題解決力)を身につける。 ③乳幼児の発達の連続性を学び、総合的な子ども理解を基礎として、保育内容の充実と質の向上に資する指導計画の立て方を学ぶ。また、指導計画を立てる際には、計画、実践、反省・評価、改善を行うことを理解し、子どもの発達過程を踏まえた保育計画の作成を習得する。

年度	コース	科目名	教員氏名	単位数	授業のねらいと到達目標(DPと当該授業科目との関連)
2022	保育	保育内容の指導法(表現)	岡崎 裕美	2	<p>保育所保育指針に示す1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育における5領域の「表現」、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすること、また、総合的な子どもの理解(保育技術)や(保育実技)と使命感(自己管理)(生涯学習)を備えた教育者・保育者の育成を達成するため、保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについて具体的に学ぶ。</p> <p>音楽表現における幼児の感性と発達を視野に入れながら音楽を心と身体で味わい、感じたことを自由に表現し、伝えることの楽しさを実感することによって豊かな表現力を身に付け、より良い(コミュニケーションスキル)や(課題解決力)、(チームワーク)の大切さを身につける。【子どもの歌の歌唱・リズムダンスの振り付け、ミュージカル・コンサート等の実務経験を有する教員が、その経験を活かして、子どもの発達に応じた表現遊びを通して、遊び方の導入と言葉かけ、遊びの展開の実技の指導法、音楽表現とその必要性を指導する。】</p>
2022	保育	児童文化I	岡崎 裕美	2	<p>子どもが誕生して、見るもの聞くものその環境の全てが学習の対象となる乳幼児の成長の一つ一つの素材を紐解き、伝承文化(遊び・歌・絵本、他)、季節の子どもの行事・歌等を通して、子どもの心身の成長に合わせた保育の表現技術を広く学ぶ。総合的な子ども理解(保育に関する知識)や(保育実技)、(保育技術)と使命感(自己管理)や(生涯学習)を備えた教育者・保育者を達成するため、子どもの日常を取り巻く様々な文化的活動の歴史を理解し、それぞれの分野を保育現場で生かすことができるよう視野を広げる。また、グループで研究に取り組むことによってより良い(コミュニケーションスキル)や(課題解決力)、(チームワーク)の大切さを身に付ける。【子どもの歌の歌唱・リズムダンスの振り付け、ミュージカル・コンサート等の実務経験を有する教員が、その経験を活かして、子どもの発達に応じた表現遊びを通して、遊び方の導入と言葉かけ、遊びの展開の実技の指導法、音楽表現とその必要性を指導する。】</p>
2022	保育	保育実習II(保育所)	伊藤 祐子	2	<p>保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。実習における自己の課題を明確にする。子どもの観察や関わり方の視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。既習の教科目や保育実習Iの経験を踏まえ、(保育に関する知識)や(保育技術)、子どもの保育及び子育て支援について理解する。保育の計画、実践、記録、自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。子どもの発達の連続性及び教育と保育の関連性を重視し、(総合的な子ども理解)ができることを到達目標とする。【保育実習の実務経験がある教員が、保育所の役割や機能、保育者の業務内容、職業倫理をふまえ、保育実践ができるよう指導する。巡回指導では、保育実践の場での課題について具体的な指導をする。】</p>

年度	コース	科目名	教員氏名	単位数	授業のねらいと到達目標(DPと当該授業科目との関連)
2022	保育	保育実習指導II	伊藤 祐子	1	保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、(保育に関する知識)と、保育実践力を習得する。保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して理解する。保育士の専門性と職業倫理について理解する。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。子どもの発達の連続性及び教育と保育の関連性を重視し、(総合的な子ども理解)ができる事を到達目標とする。【保育実習の実務経験あるの教員が経験を活かし、保育実習の意義・目的を理解し、“保育”を総合的に理解し保育実践ができるよう指導する。】
2022	保育	保育内容総論	伊藤 祐子	2	幼稚園教育要領、保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解し、専門領域と関連させた理解を深める。また、幼児の発達に即した主体的、対話的な深い学びが実現する過程をふまえ、具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法を身に付ける。保育所保育指針の各章のつながりを読み取り保育の全体的な構造を理解する。子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。多様な保育の展開について具体的に理解する。本学のDP②“子ども”の発達の連続性及び教育と保育の関連性を重視し、総合的な子ども理解ができることを到達目標とする。【保育内容について実務経験を有する教員が、その経験を活かし、幼稚園教育要領、保育所保育指針などの全体構造を理解し、子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景などをふまえ、保育内容の基本的考え方を指導する。】
2022	保育	リズムック	二見 美千代	2	保育現場においてリズムックの手法を用いた活動をするための、知識と技術の習得を目指す。保育者を志す者としての自覚を持ち(社会的責任)、実際に幼児におけるリズムックを体験しその内容の分析を行う。ピアノや打楽器などを用いて、子どもが楽しんで音楽的要素を体験できるよう工夫(保育実技)をしながら、総合的な子ども理解を深める。また、身体的音楽表現などを通して主体的かつ協働的なコミュニケーションスキルを身につける。【リズムック教育の実務経験を有する教員が、その経験を活かして、リズムック指導の手法や子どもの年齢に応じた対応を指導する】

年度	コース	科目名	教員氏名	単位数	授業のねらいと到達目標(DPと当該授業科目との関連)
2022	保育	乳児保育I	加藤 智子	2	<p>乳児保育では、3歳未満児の発達の特徴を踏まえた総合的な子どもの理解(保育に関する知識)を基礎とし、人間形成の上で大切な乳幼児期の育ちに関わる保育者として、子どもに寄り添い、ともに成長しようとする使命感(社会的責任・自己管理・生涯学習)をもって、以下の4点について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等(保育に関する知識)について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題(保育に関する知識)について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と運営体制(保育に関する知識)について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携(コミュニケーションスキル・チームワーク)・協働及び保護者や地域の関係機関との連携(課題解決力)について理解する。 <p>【公立保育所においてクラス担任、主任保育士、所長としての勤務経験を有する実務家教員が、その経験を活かし3歳未満児の発育・発達の具体的な姿から発育の連続性や、一人一人を主体とした保育内容の考え方を指導する。】</p>
2022	保育	社会的養護内容I (生活環境等)	藤崎 明	2	<p>本授業では1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷、2. 子どもの人権 擁護を踏まえた社会的養護の基本、3. 社会的養護の制度や実施体系、4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職、5. 社会的養護の現状と課題、等について理解することを授業のねらいとする。</p> <p>これにより、社会的養護の必要な子どもに対して関心が高まり、使命感(社会的責任・生涯学習)を醸成する。被虐待児、身体障害や発達障害、知的障がいなどの子どもに対する理解が深まることによって総合的な子ども理解(保育に関する知識・保育技術)ができるようになる。また、演習やグループディスカッションによってコミュニケーションや課題解決の能力(コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ、課題解決力)を養う。【社会福祉士で障害児者の支援の実務に日頃あたっている教員が、その経験を生かして障害を持つ子どもたちへの支援の手法を指導する】</p>
2022	保育	教育相談(カウンセリング含む)	吉村 真理子	2	<p>教育相談は、子どもたち全員を対象とし、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動であるという認識と、子どもに寄り添いともに成長しようとする使命感(社会的責任・生涯学習)を培う。各年齢段階における心理発達の特徴を踏まえた総合的な子ども理解(保育に関する知識)を基礎として、乳幼児・児童及び保護者等に心理教育的援助を行う際に必要な技術(保育技術)を習得し、より良い(コミュニケーション・スキル)や(課題解決力)を身につける。【心理相談の実務経験を有す教員が、その経験を活かして、カウンセリングの手法や今日的な課題(不登校、発達障害等)への対応を指導する。】</p>
				31	